※令和３年度以前入学生用

学校番号	３１３

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	現代の日本史　改訂版　（山川出版）						
副教材等	図説日本史通覧　（帝国書院出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「歴史」と言う時間軸を感じる。
歴史的な出来事に問題意識を持つ。
日本の歴史的背景と世界の歴史的背景を相互的に考察できるようになる。

２　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけ、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことを目的とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史への関心と問題意識を持ち、国際社会で通用する多様な視点を身につけようとする。	現代世界の諸問題を歴史的観点から考察し、世界の変化を的確に判断し、その過程や結果を表現している。	近現代史を中心とした世界の歴史に関する資料に接し、有用な情報を選択し、読み取り、まとめる。	近現代史を基本とする世界の歴史に関する基本的な出来事を、地理的条件や日本の歴史とも関連して理解する。
評価方法	レポート ワークシート	定期考査 レポート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第一章　開国と維新	１．明治維新の背景 ＊東アジア世界の秩序と欧米諸国の東アジア進出による情勢変化を理解する。 ＊近世国家の仕組みや、経済・文化を踏まえて、近世社会の特徴を理解する。		○		○ ○	b: 近世の政治体制・経済状況を理解できるようになる。 d: 欧米列強の接近に伴う、東アジア世界の秩序の動揺について理解できるようになる。	ワークシート
		２．西洋への開国 ＊国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を考察する。		○		○	b:条約締結の流れを、に着目して、幕末の政局への影響を考察できるようになる。 d: 日米和親条約・日米修好通商条約の締結の流れについて理解できるようになる。	ワークシート
		３．政治秩序の崩壊 ＊幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。				○	d: 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できるようになる	ワークシート
		４．王政復古と急進的改革 ＊明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の国家的統一過程を考察する。 ＊文明開化による欧米文化の導入と、国民の反応を理解する。	○	○			a: 近代化政策や欧米文化の導入について、国民の間に受容と反発があったことに関心を持つことができるようになる。 b: 廃藩置県・四民平等・徴兵制・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できるようになる	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		５．新たな対外関係の樹立と内乱の終結 ＊明治初期の対外政策について、欧米への対応と、アジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ＊近代化政策の反動としての士族反乱の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。	○ ○	○ ○			a 政府への不満・要求の表現が、武力反抗から言論による抵抗に移行する要因を考察できるようになる b 国境画定を含む明治初期の外交政策について、欧米諸国への対応とアジア諸国への対応の違いを多面的・多角的にとらえることができるようになる	ワークシート
	第２章　近代国家の形成と発展	１．立憲政治をめざして ＊政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。		○		○	b 国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察できるようになる。 d 国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について理解できるようになる。	ワークシート
		２．憲法の制定と議会の開設　＊大日本帝国憲法の成立と帝国議会のあり方を理解する。				○	d 憲法の特色、議会と選挙の仕組み、内閣のあり方などを通して、戦前の立憲制の仕組みを理解できるようになる。	ワークシート
		３．東アジアの国際環境と条約改正問題 ＊東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程を考察する。 ＊東アジアをめぐる国際環境が変容する中、朝鮮への勢力拡大を目指した経過について考察する		○ ○		○ ○	b 条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察できるようになる d 朝鮮をめぐる対立が日清戦争の背景となった点を理解できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		４．清国との戦い ＊日清戦争の経緯と戦後の対外関係の変化、国内政治の展開を考察する。 ＊清国における欧米諸国の勢力拡大の経緯を理解する。		○ ○	○ ○		b 地図から欧米列強の利害を読み取ることができる。 c 朝鮮問題が日清戦争の背景となった経緯を理解できたか。賠償金のグラフから政府の対応を読み取れるようになる。	ワークシート
		５．藩閥・政党の対立と協力 ＊立憲体制成立後から日露戦争に至るまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から考察する。		○		○	b 藩閥・政党・軍部・官僚・元老の関わりの中から、立憲政治の特徴を考察できるようになる。 d, 立憲政治のしくみを理解できるようになる。	ワークシート
		６．ロシアとの戦い ＊開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連づけて考察する。		○	○		b 開戦への過程を英露対立など世界情勢と関連づけて考察できるようになる。 c 日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察できるようになる。	ワークシート
		７．日露戦後の国際関係と日本 ＊日露戦争の国際的影響について理解する。 ＊戦後の植民地支配の推進と諸外国の反応について考察する。 ＊戦後の国内政治・民衆の反応について考察する。		 ○ ○		○ ○ ○	b 桂園時代を軍備の拡張の視点を踏まえて考察できるようになる。 d 日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激したことを理解できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

	第３章　産業化の推進と国民生活の変化	１．産業革命の進展 ＊明治初期から日清戦争にかけて資本主義国家の基礎ができた過程を考察する。		○		○	b 殖産興業政策を基礎に様々な観点から産業革命がどのように達成されたのかを考察できるようになる。 d 殖産興業政策の流れを理解できるようになる。	ワークシート
		２．資本主義の確立とその特色 ＊日清戦争後から日露戦争後に資本主義国家が確立していく過程を考察する。		○	○		b c 製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察できたか。	ワークシート
		３．社会問題の発生 ＊近代産業の発展に伴う社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	○			○	a 足尾銅山鉱毒事件を代表とする、公害問題、労働問題に関心を持つことができるようになる。 d 近代産業の発展に伴い、どのような社会問題が起きたのかを理解できるようになる。	ワークシート
		４．国民文化の形成 ＊伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点を持って考察する。	○			○	a 日本の伝統的な文化に、どのうような形で欧米文化が参集にしてきたに関心をもつことが出来る。 d. 近代文化の特色について 理解できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		５．国民生活の変化 ＊交通・通信手段やメディアの発達による生活圏の拡大、産業化の進展による都市人口の増加につながったことを理解する。				○	d 都市人口の増加に伴う疫病の流行などの問題点を含め、国民生活の変化を理解できるようになる。	ワークシート
	第４章　第一次世界大戦と大正デモクラシー	１．第一次世界大戦と日本の外交 ＊第一次世界大戦前後の世界情勢を踏まえて、日本の中国進出、シベリア出兵の経緯を考察する。		○		○	b 欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、第一次世界大戦を考察できるようになる。 d. 対華二十一カ条の要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について理解できるようになる。	ワークシート
		２．デモクラシーの高まりと政党 ＊大正期の政党政治のあり方を考察させる。		○		○	b. 大正デモクラシーの浸透が社会にどのような影響を与えたのかを理解できるようになる。 d 第一次護憲運動・米騒動・原敬内閣成立の意義について考察できるようになる。	ワークシート
		３．国際協調と軍縮の進展 ＊ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。	○	○			a パリ講和会議を期に起こった中国・朝鮮における民族運動の高揚に関心を持つことが出来るようになる。 ｂ ワシントン体制への日本の対応と協調外交について考察できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		４．政党政治の時代 ＊護憲三派内閣以降、二大政党による政党政治が昭和初期まで続いた意義を考察する。		○		○	b 第二次護憲運動・護憲三派内閣による普通選挙法・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できるようになる。 d 二大政党による政党政治の流れを理解できるようになる。	ワークシート
		５．大戦中から戦後の経済と社会 ＊第一次世界大戦が日本の社会経済に及ぼした影響について、欧米・アジアとの関連に着目して考察する。また、戦後恐慌・関東大震災の影響について理解する。 ＊民主主義的風潮による社会運動の動向を理解する。		○ ○		○ ○	b 大戦景気による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できるようになる。 d 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解できるようになる。	ワークシート
		６．都市化と大衆文化 ＊労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。	○	○			a 当時の、学問・芸術・出版・マスメディアに関心を持つことが出来るようになる。 b 学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連づけに着目して考察できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

	第５章　第二次世界大戦と日本	１．昭和恐慌 ＊関東大震災から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。	○			○	a 政党政治･財閥への失望が軍部への期待につながったことに関心を持つことが出来るようになる。 d 金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁･世界恐慌との関連を含めて理解できるようになる。	ワークシート
		２．協調外交のゆきづまり ＊国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。		○		○	b，d 山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を考察できるようになる。	ワークシート
		３．満州事変から国際的孤立へ ＊世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、日本の国際的孤立の過程について考察する。		○		○	b 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の国際的孤立の過程について、国内外の対応を踏まえて考察できるようになる。 d， 日本がどのような流れで、国際的孤立へ追い込まれたのかを理解できるようになる。	ワークシート
		４．軍部の政治的台頭 ＊国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が政治面・外交面で増大していく過程を考察する。		○		○	b 政治家・財界人へのテロ事件や、学問への思想的弾圧などを踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を考察できるようになる。 d 独伊との提携が日中戦争･太平洋戦争の背景となった点を理解できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		５．中国との戦い ＊日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。		○	○		b、c 日中戦争の長期化に伴い進められた戦時体制下の経済統制と国民生活など、様々な角度から考察できるようになる。	ワークシート
		６．第二次世界大戦と世界新秩序 ＊第二次世界大戦について、国家間の提携やその性格の相違を考察する。 ＊国内の総力戦体制の構築に向け、新体制運動・大政翼賛会などが組織されたことを理解する。		○		○ ○	b 連合国と枢軸国の性格の違いやドイツ・ソ連との提携の過程について考察できるようになる。 d 総力戦体制の構築に向け、政党や労働組合をはじめとする諸組織を改編・統合していったことを理解できるようになる。	ワークシート
		７．太平洋戦争 ＊日中戦争の長期化と国際関係の悪化が、米英諸国との戦争に拡大していった過程を考察する。 ＊東南アジア地域における戦争の推移、占領地帯での軍政のあり方と住民の反応について考察する。	 ○	○ ○			a 日本が太平洋戦争において、アジア諸国にどのような影響を与えたのかに関心を持つことが出来るようになる。 b 満州事変・日中戦争から太平洋戦争まで戦域の拡大と性格の相違に考察できるようになる。	ワークシート
		８．日本の敗北 ＊戦局の悪化に伴う勤労動員・強制連行・学徒出陣・学童疎開などの措置を考察する。 ＊この戦争がもたらした惨禍に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	○ ○	○			a 東京大空襲、広島・長崎への原爆投下など国民が戦禍を被ったことに関心を持つことが出来るようになる。 b 戦争末期における国民生活の荒廃とその背景を考察できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

	第６章　占領下の日本	１．占領政策の展開 ＊戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び民主化政策と、それに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。 ＊戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	○ ○			○	a GHQ の諸政策が、どのような形で実施されていたかについて関心を持つことが出来るようになる。 d 主権在民・平和主義・基本的人権尊重の３原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を考察できるようになる。	ワークシート
		２．戦後民主主義の定着 ＊民主主義の定着に向け、教育制度の改革が実施されると同時に、敗戦により日本人の価値観に大きな変化があった点を理解する。	○			○	a 急激な価値観が当時の日本人に対し、どのような変化をもたらしたのかを理解できるようになる d 急激な価値観の転換は、混乱を伴いながらも受け入れられていったことを理解できるようになる。	ワークシート
		３．政治・経済の再建 ＊戦後政治の動きと、経済の安定化を求める施策を関連づけて考察する。		○		○	b 戦後、復活した政党政治と、インフレーションの抑制、生産復興のために採られた経済諸政策を、国民生活の状況と関連づけて考察できるようになる。 d 戦後、生産復興のためにどのような政策が採用されたのかを理解できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		４．独立の回復 ＊東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考察する。 ＊連合国による日本の占領が終結したことと、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 [期末考査]		○ ○		○ ○	b 中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察できるようになる。 b サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できたか。 d 日本がどのような流れで独立に向け動いたのかを理解できるようになる。	ワークシート
	第７章　日本の自立と経済成長	１．55 年体制の成立 ＊独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める 55 年体制が成立した意義を考察する。 ＊日本の国際連合加盟の経緯を理解する。		○ ○		○ ○	b 冷戦構造下の日本で、５５年体制により安定した保守政権が成立した意義を考察できるようになる。 d 日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できるようになる	ワークシート
		２．安保体制下の日本 ＊自民党内閣が長期継続する中、アメリカ・大韓民国・中華人民共和国との関係に着目して、日本の外交・政治の動向を考察する。		○		○	b、 d 新安保条約・日韓基本条約・沖縄返還問題・日中国交正常化などを取り上げ、外交・政治の再編過程を理解、説明できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		３．高度成長の光と影 ＊朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化の側面に着目して考察する。 ＊消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。	 ○	○ ○			a 耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題に関心を持つことが出来るようになる。 b 特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを考察できるようになる。	ワークシート
	第８章　現代の世界と日本	１．激動する世界 ＊ドル＝ショック、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。 ＊冷戦の終結・ドイツの統一・ソ連の崩壊を踏まえて、世界構造の変化について考察する。 ＊石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ＊冷戦終結の後も、世界各地で民族紛争や宗教対立に起因する武力紛争が頻発した状況と、日本の貢献について考察できたか。	○ ○	○ ○ ○ ○		 ○ ○	a 湾岸戦争への日本の対応と、国連平和維持活動協力法制定の関連性について関心を持つことが出来るようになる。 b 石油危機を技術革新で乗り越え、経済大国となった日本がODA などの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことが考察できるようになる。 d ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことを理解できるようになる。	ワークシート
		２．国内政治の再編成 ＊1980 年代以降の国内状況について、日本の政治・外交・財政を踏まえて多面的・多角的にとらえる。		○		○	b d ５５年体制が崩壊し流動的になった政治状況、硬直化した財政状況などを理解し、考察できるようになる。	ワークシート

※令和３年度以前入学生用

		３．アジア・太平洋地域と日本 ＊1980 年代以降の国内状況について、経済状況・地域協力のあり方を踏まえて多面的・多角的にとらえる。		○		○	ｂｄ バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを理解し、考察できるようになる。	ワークシート
		４．21 世紀の課題 ＊同時多発テロ以降の国際協力のあり方や、地球環境問題に対して考察する。	○	○			a テロに対する日本政府の基本姿勢や地球環境問題に対して、関心を持つことが出来るようになる。 ｂ テロに対する日本政府の基本姿勢や地球環境問題に対して自分の意見を説明できるようになる。	ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。